

脆弱性を識別する CVE 番号の新体系による採番のお知らせ

米国 MITRE 社^{*1}が管理運営する脆弱性の識別子 CVE (Common Vulnerabilities and Exposures)^{*2} 番号の体系が、2014 年から年間 1 万件を超える脆弱性にも対応できるよう拡張されました。

CVE を参照している組織等においても、固定長の CVE 番号を前提とした機械処理をしている場合には、誤動作する可能性があるため、米国 MITRE 社は、2014 年 1 月 15 日、CVE の Web サイト上で新番号体系による運用を開始している旨の Notification を公表、7 月 15 日には、CVE 番号体系変更の Reminder Notification を公表しました。そして、2014 年 9 月 17 日、CNA をはじめとする CVE 利用者や脆弱性情報を参照するエンドユーザに至るまで、この CVE 番号の新体系を広く周知すべく、改めてプレスリリースを発行しました。

これを受け、CNA(CVE Numbering Authority, CVE 採番機関)^{*3}である JPCERT/CC からもお知らせいたします。

CVE 番号の形式は、1999 年の運用開始以来、「CVE-<西暦年号>-<4 桁の数字>」と定められていたため、1 年間に 1 万件以上の CVE 番号を付与することができませんでした。世界中で発見される脆弱性は年々増加の一途をたどっており、そのままでは今年にも 1 万件を超えて CVE 番号を付与できない事態になることが懸念されていました。CVE を管理・運営している Primary CNA である米国 MITRE 社では、2013 年に CVE 番号体系の変更に対応するための調査、関連組織や利用者へのヒアリングやアンケート等を実施し、約 1 年間をかけて番号体系の変更を検討しました。その結果、数字 4 桁で不足する場合には漸次桁数を増やす方式が採用されることになり、2014 年 1 月 1 日より実施されています。JPCERT/CC も CNA として、この番号体系に準じた運用を開始しています。

CVE 新番号体系を適応した組織は次の URL をご参照ください。

対応組織・機関一覧：

Declarations of CVE-ID Syntax Compliance(MITRE 社)

http://cve.mitre.org/cve/identifiers/compliant_organizations.html

米国MITRE社のプレスリリースは次のURLをご参照ください。

プレスリリース：

Leading Software Vendors and Cybersecurity Organizations Among Early Adopters of MITRE's New Vulnerability Naming Format

<http://www.mitre.org/news/press-releases/leading-software-vendors-and-cybersecurity-organizations-among-early-adopters-of>

*1:米国MITRE 社 News & Events June 23, 2010 :

“JPCERT/CC Becomes CVE Numbering Authority”

<https://cve.mitre.org/news/index.html>

*2:Common Vulnerabilities and Exposures(CVE) :

CVE とは、米国MITRE 社が管理運営を行っている、一般公表されている公知の脆弱性情報を掲載している脆弱性情報辞書(データベース)です。CVE は世界各国の製品開発企業、セキュリティ関連企業、調整機関等が広く利用しています。「CVE 番号」は、このデータベースに収録された脆弱性情報を一意に識別するために割り当てられる番号です。

Common Vulnerabilities and Exposures

<https://cve.mitre.org/>

CVE に関する詳細は、米国MITRE 社が提供する次のURLをご確認ください。

CVE List Main Page

<https://cve.mitre.org/cve/index.html>

About CVE

<https://cve.mitre.org/about/index.html>

*3:CNA(CVE Numbering Authorities) :

CVE 番号の採番を受ける方法は2 種類あります。1 つは「報告者」として新規脆弱性毎にMITRE 社に申請する報告形式による方法です。2 つめはCNA としてMITRE 社の認定を受けた機関が、必要な確認の後、MITRE 社より予め配分されているCVE 番号群(CVE Number Blocks)から採番する方法です。

JPCERT/CC の他にCVE 番号の採番活動を行っている組織としては、Third Party Coordinator(第三者調整機関)としては米国CERT/CC、Software Vendors(製品開発者)としてはAdobe 社,Apple 社, Cisco Systems 社, Hewlett Packard 社,Microsoft 社, Oracle 社, 等といった大手製品開発者など、研究機関としてはCore Security Technologies 社, Secunia 社があり、それぞれ認定を受け、独自採番を行っています。

CNA (CVE Numbering Authority)

<https://www.jpCERT.or.jp/vh/cna.html>

CVE Numbering Authority の詳細は、米国MITRE 社が提供する次のURLをご参照ください

CVE Numbering Authorities

<https://cve.mitre.org/cve/cna.html>



CVE 互換(CVE Compatibility) :

CVE には、脆弱性対策情報提供サービスやWeb ページ等が、CVE 番号の正確な表示、適切な関連付け、CVE 番号による情報の検索などの一定の特定条件を満たした上で米国MITRE 社へ申請すると、CVE 互換認定を受けることができる「CVE 互換認定(CVE Compatibility)」という制度があります。

CVE 互換認定に関する詳細は、米国MITRE 社が提供する次のURLをご参照ください。

CVE-Compatible Products and Services

<https://cve.mitre.org/compatible/compatible.html#j>